



ひらがなニュースゆかりの方数名に一言いただきました。

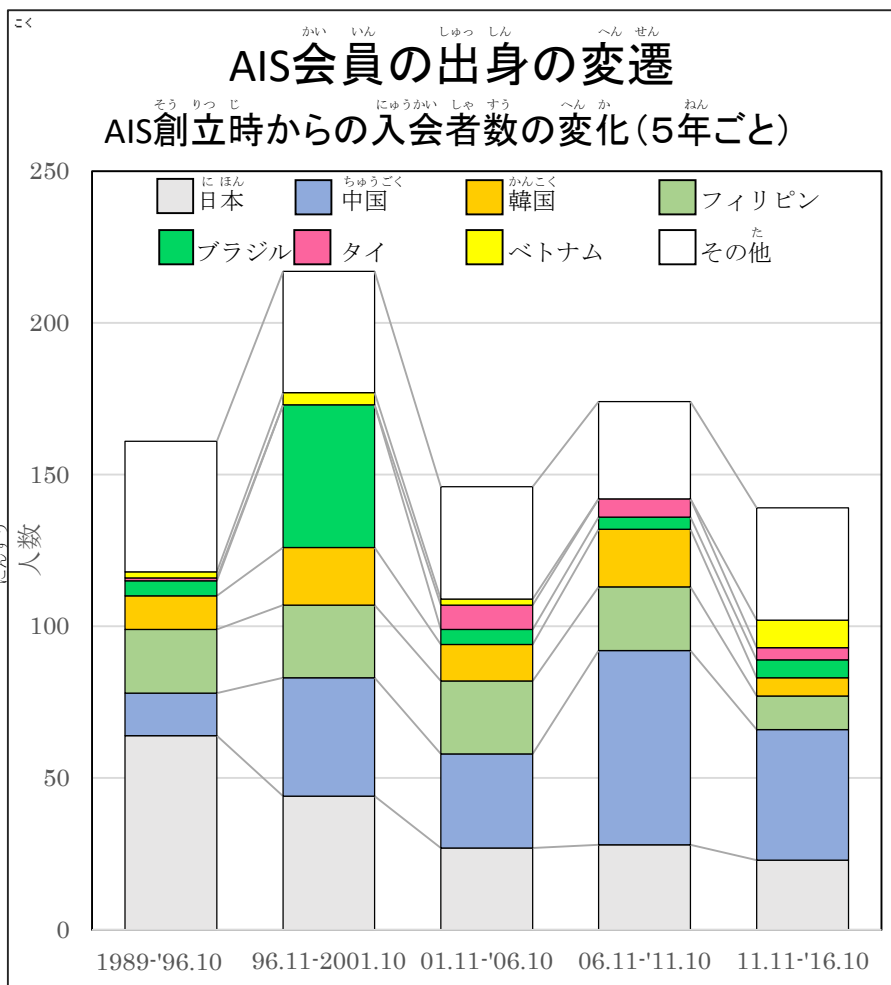
●この広報も鉛筆手書きから電子画面と変わり、AISの活動も日本語の勉強から出発して多方面の文化を楽しむようになりました。メンバーも多様になり、週2時間ではお互いの理解が十分ではありません。今後はこの広報で活発な意見を出し合って、よりよいAISを目指していきましょう。(古山愛子)

●私は「ひらがなニュース」をワープロを使って発行していました。AISの活動を多くの人に知っていただくのに写真を載せたいと思い努力しました。それからだれでもが心を寄せ合い気持ちを伝えられるように願い「コーヒータ임」というコラム欄を作りました。(坂井サト子)

●私が担当した頃は今のようにメールもなく原稿をワープロでうち、プルーフリーダーの御宅に伺い英語を直してもらい、また打ち直し直接印刷担当者に渡していました。(小川富士子)

●ひらがなニュースの編集をしながら色々な国の方と交流し、毎日使っている日本語を見なおし、ワープロやパソコンの使い方をおぼえてきました。(伊藤やよい)

●1993年、手書きのだったのを手に入れたワープロで作りはじめました。絵が得意な私は季節感のあるイラストを夜なべで楽しんで描いたものです。いつの間にかコンピューターが主流となり、2000年ミレニアムあたりから、イラストはネットで無尽蔵に探せるようになり、ファックスではなくメールで原稿のチェックができるようになりました。(角田仁子)



AISが1989年に活動を始めてから27年が過ぎ、「ひらがなニュース」はそのあいだ欠けることなく発行され、今回で300号を迎えます。この機会に、入会された方々の出身の変遷を見てみました。AISには世界中から入会者がありますが、この27年間にその数は60カ国以上になります。古い資料ですので不記載などもあり統計としてみるには正確さに欠けますが、それでも創立当初からの数字を追ってみると、また少し違った面が見えてくるのではないのでしょうか？



ひらがなニュース 2016年11月25日発行

事務局：三浦

広報：井原

編集：角田

印刷発行：クローバー

